

## 2022年3月期 第2四半期 決算説明会（電話会議）主な質疑応答（要旨）

**Q1. 年間の配当金予想は増配となり、50円から100円となりました。安定的・継続的な配当が方針とされていますが、今後も同配当水準を維持していくと考えてよいでしょうか。**

A1. 第2四半期の実績、また修正予想はコロナ禍の市場環境によるものであり、その影響は次年度まで続く可能性があると考えています。平準化が進めば、一時的に業績は低下していくことを予想しますが、その後も利益水準を拡大することによって、本年度の配当予想の水準が安定・継続水準となることを目標に、次期以降の計画を立ててまいります。

**Q2. 営業粗利益率の動向を教えてください。**

A2. 前年同期比で営業粗利益率は低下しています。一方、運賃水準の高騰が継続していることや、取扱物量の増加により、営業粗利益額は増加しています。

**Q3. 国際貨物輸送需要と、スペース供給に対する中長期の予測を教えてください。**

A3. 世界的なコロナ感染の状況、地政学的リスクによる影響がないという前提では、国際貨物輸送の需要は引き続き底堅いと考えています。一方、各種情報を鑑みますと、スペースの供給量は次年度以降も大幅な回復の可能性は低いと見込んでいます。

**Q4. 次期経営計画において、ポストコロナの前提をどう考えているでしょうか。**

A4. 次期経営計画の初年度である2022年度はウィズコロナの状況が続くと予想します。アフター・コロナの状況ですが、ビフォー・コロナでは世界の航空貨物の6割が旅客便で輸送されていましたが、人々の行動変容等から同水準の旅客便が復帰するかどうかは未知数だと考えています。

**Q5. 第3四半期（10-12月）での業績予想を教えてください。**

A5. 足元の状況は順調と見ています。自動車関連の挽回生産の兆しが出ていますが、この影響も出てくると思われます。

**Q6. チャーターでの輸送実績を教えてください。**

A6. 第2四半期累計では、約3万トンを取扱い、積載率は90%を超える水準です。収支面でもグループ全体では期待値に沿うものになっています。

**Q7. 海上輸送スペースの調達状況について教えてください。**

A7. 海上輸送については、航空と異なりスペースの先買いは難しい環境です。引き続き、船会社とWin-Winになるような長期契約も念頭に、関係を強化していきます。